

1. 計画の概要

尾道市民の防火防災の輪を広げ「みんなで守ろう尾道のまち」を合言葉に地域や事業所の防災リーダー育成を目指し、まちを守る力強さと安心感を与えるシンボルとして誕生した。耐震強度を1.5倍にするアウトフレーム構造がこの建物の大きな特徴となっており、さらに外周に取り付いたルーバーにより日射や通風を制御しエコロジカルな施設を実現するとともに、裏側のないまち全体を見守るラウンド型の庁舎となっている。さまざまな機能を有する施設として照明計画は、以下の3点をテーマとし、全体の統一感を図った(図1)。

1.1 やさしく発光するオブジェとして

1.2 最新鋭の機能をもったコントロールセンターとして

1.3 快適な勤務環境として

上記、各テーマに沿って、計画を紹介する。

1.1 やさしく発光するオブジェとして

防火防災の大切さを日常的に意識させ、また守られているという安心感を、精神的にも視覚的にも市民に呼びかけるあかりが24時間消えることなく、まちの常夜灯としてやさしく発光するオブジェのような建築を目指した。昼夜動き続ける消防施設として、〈昼-夕-夜-深夜〉の時間の中に存在するさまざまな光の要素(自然光を含む)が建築要素に絡み、時々刻々と変化する表情を持つという、尾道地域のシンボル・オブジェとなっている。建築外構計画と合わせ、低位置照明を中心としたヒューマンスケール視点の柔らかな光と、景観としてのダイナミックな光を融合させひとつの空間を創り出し

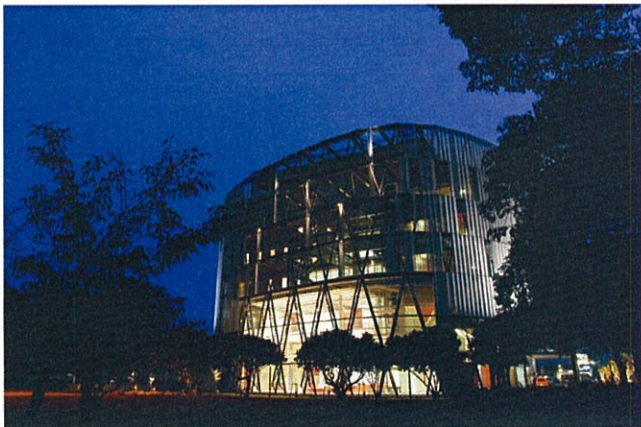


図1 夜外観

た。

また、建物の外観全体を覆うメタルスキン、またディテールの各所において使われている半透過性の要素が、光の「入」「出」をコントロールし、空間の風通しをよくしている。素材感をみせる演出光を添えることで夜間も地域の中心で「見守り続ける」存在感を醸し出している(図2)。

(1) 【昼】ガラスカーテンウォールから降り注ぐ太陽光を、内部空間へ取り込む。

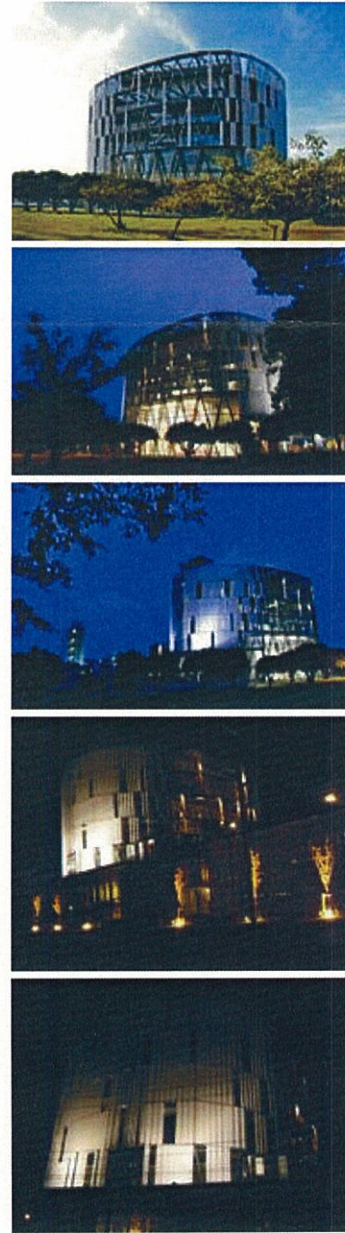


図2 外観時刻移り変わり

- (2) 【夕】 建物を覆うメタルスキンが西日に照らされ、内からは光がもれ始める。
- (3) 【夜】 メタルスキンへのライトアップ、内からもれる光がアウトフレームをシルエットとして浮かびあがらせ、建物の力強さともれ光の優しさが同調する、幻想的な表情を創り出す。
- (4) 【深夜】 内からのもれ光は最小限となり、外部はアイキャッチとなる煌めきと、面として優しく光るライトアップにより夜間も見守り続ける、まちの常夜灯となる。

1.2 最新鋭の機能をもったコントロールセンターとして
構造的な要素であるアウトフレームなどの鉄骨による工業的なたくましいイメージに加え、この建築は極めて機能的にそして簡素にデザインされている。尾道グレーによるシックな色調に、金属的な素材感が全体としてある種未来的なイメージを想起させた先進的な防災情報をつかさどるコントロールセンターを表現した。

市民との触れ合いの場でもあるエントランスホールでは、セラミックメタルハイドランプの狭角スポット配光によるシャープな光で展示物を照射することでベースの明るさとし、光柱の素材感を引き立てることでメリハリのある空間となった。スポットは特注にて高天井用昇降装置付器具とし、部位によっては非常照明内蔵タイプを採用することにより、将来的に高所作業車や足場を組むなどのメンテナンス行為を最大限減らすよう配慮した(図3、図4)。

本部棟と車庫棟を繋ぐ出動ブリッジでは、グレーチング床下部に防雨防湿形蛍光ランプ器具を仕込み、通路下の照度確保と通路上的間接照明を兼ねている。照明設備としては最もシンプルな手法をとりながら、建築素材を活かすことで、クールで緊張感のある空中通路を演出している(図5)。

1.3 快適な勤務環境として

24時間体制となる消防署員の生活環境は機能的であるとともに、より快適であり、むしろ待機時においてリラク

クスできる環境が用意される。特に2層吹き抜けの食堂および仮眠室スペースは回りこむ間接光に包まれ、癒しと落ち着きのある柔らかな光空間を実現した。食堂では、下方光束をメインとする上下配光の吊照明より、机上照度を300 lx 確保しながら天井面へも光を補うことで明るさ感と開放感を与えている(図6~図8)。

消防施設見学コースのうち、ガラス越しに見学をする通信司令室などでは、JIS V 分類クラスIIをクリアするOA 作業室用ルーバーの採用や反射板のグレアに配慮し

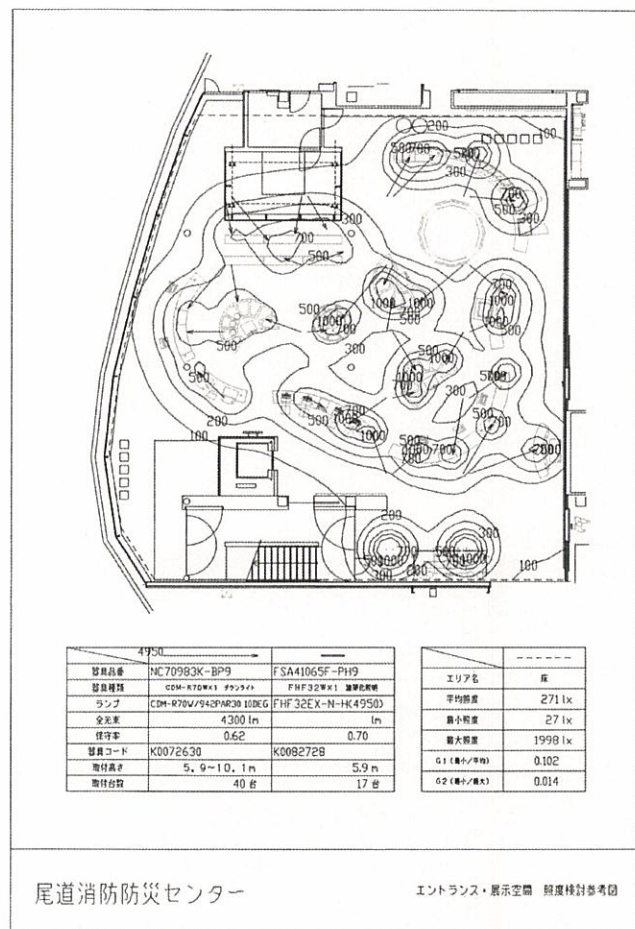


図4 エントランスホール照度分布図



図3 エントランスホール



図5 出動ブリッジ



図6 食堂



図8 仮眠スペース廊下



図9 通信司令室

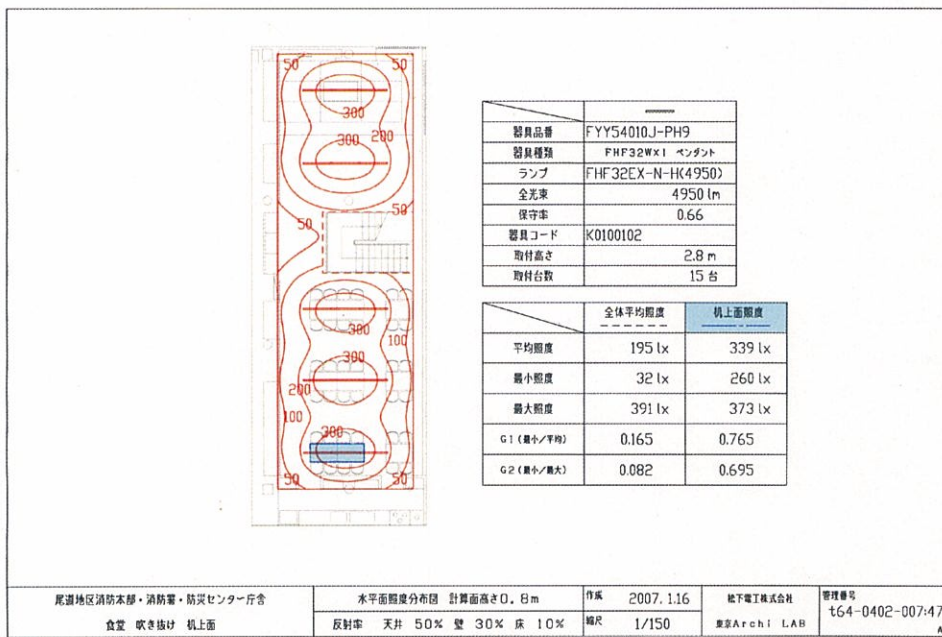


図7 食堂照度分布図

たグレアレスダウンライトの採用により、ガラスや通信画面への映り込みやグレアに配慮した。設計照度としては机上面750 lxを確保している。器具配置は「見せる執

務空間（見学コース）」の視点より、当施設特有の照明計画となった（図9、図10）。

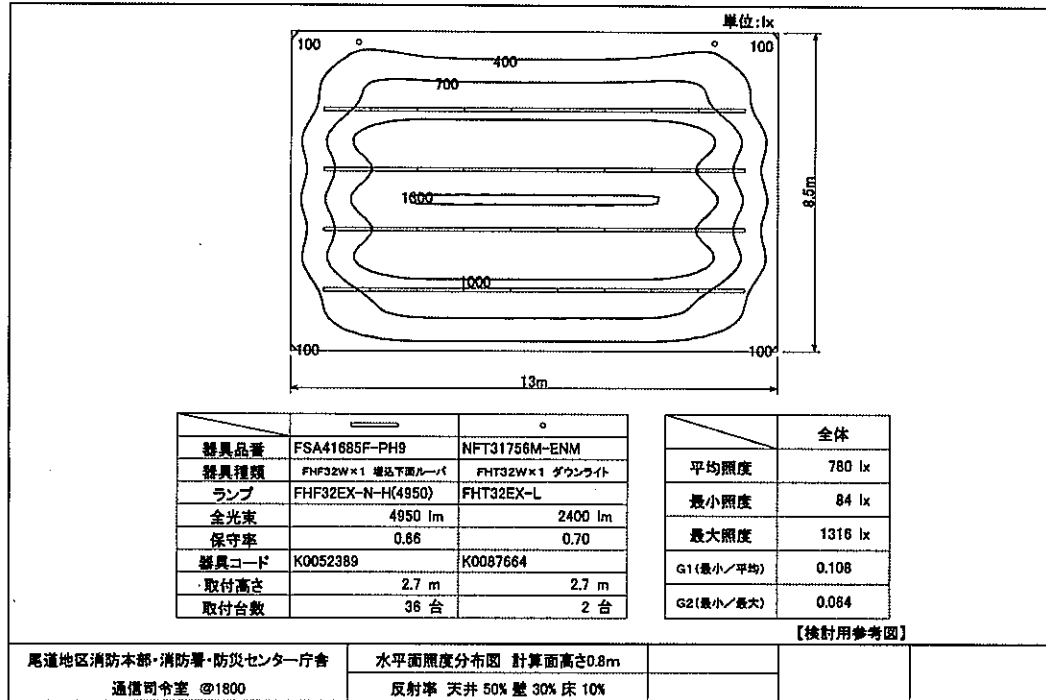


図10 通信司令室照度分布図

2. 終わりに

本計画は環境に対しての省エネ効果も兼ね備えながら、新規性のある建築意匠・照明要素により、消防庁舎のあるべき姿“まちのシンボル”を創り出しており、バランスの良い手法としての波及効果が期待できる。

公共物件において、照明の最終細部までこだわり続け実現することができたのは、関係各社、ご担当者のご理解と多大なご尽力が不可欠であり、ここで改めて厚くお礼申し上げます結びの言葉に代えさせていただきます。

建築概要

建築名称：尾道消防防災センター
所在地：広島県尾道市
施主：尾道市消防局

設計：(株)久米設計
照明デザイン：(株)久米設計 伊藤 彰
松下電工(株) 坂上真理

図1, 図2(一部), 図3, 図5~図8 ©(株)久米設計
図2(一部), 図4 ©松下電工(株)

著者紹介

伊藤 彰

1988年武蔵工業大学工学部建築学科卒。同年(株)久米建築事務所入社。現在(株)久米設計 建築設計部 主管。

坂上 真理

2003年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒。現在松下電工(株) 東京 Archi LAB 照明デザイン担当。